

さ
み
だ
ね
を



BYAB MANBA BIYORI

SORA/BASHO

ISAMIDARE-WOI



2007.SAYAMA-GUMI

さ
み
だ
ね
を



はじめに

こんにちは、はじめまして。

日和新参者のサヤマユキヒロと申します。

新参者なのにコミケでいきなりお誕生日席でなんでじゃーウギャーと頭を抱えておる次第。

そういうことはいいです。

原作はけっこう以前からちらほら読んでおったのですが、ハマリきっかけはアニメです。原作のおもしろさをアニメの演出でさらに引き立てるという、なんとも理想的な相乗効果ですネ。監督が十兵衛ちゃんっていうアニメ作ってたひとで、こっちもおもしろいから観てみるといいヨ！ 曾良君と太子の中の人が出てるから声フェチの方にはなおさらおすすめたヨ！

そういうこともいいですね。すみません。

(そばもえの方にはあんまり向かないかもしれない)

それにしても日和キャラって描くのむずかしいですね…一見シンプルで描きやすそうなのに。特に曾良君は基本無表情なので一歩間違うとほんと誰だかわからない。芭蕉さんも、もともとわたくしがイカしたおっさんスキなせいか、無闇にガタイがよかったりかっこよかったりという方向に走ってしまいがちです。普通のオッサンがこんなにむずかしいものだったとは！

そんな苦労話もいいですか。そうですね。

でもそれ以上書くこともないので本編へどうぞ。

ばしょういちにちいちぜん

芭蕉一日一善

だいじ
(題字・サヤマユキヒロ)



曾良君
ストップ！
ちよっと
待った！

なんですか
気安く声を
かけないでください
芭蕉さん

いいじゃないか！
声くらい気安く
かけさせろ！

いいから
足元見ろ！

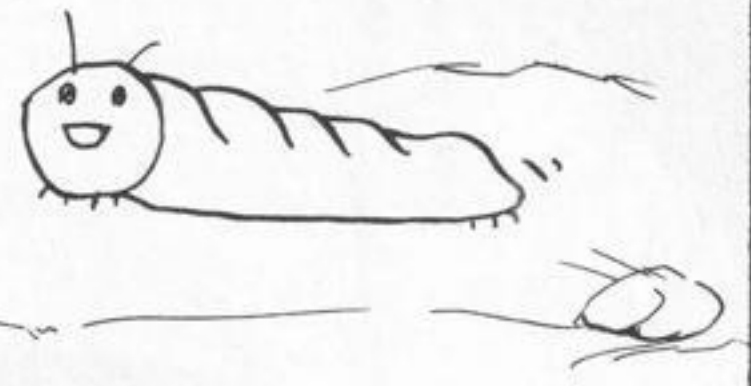
足元？

重要な
たんぱく源
ですね

第一声が
それが！

そこまで
ハングリーな
旅じゃないだろう！

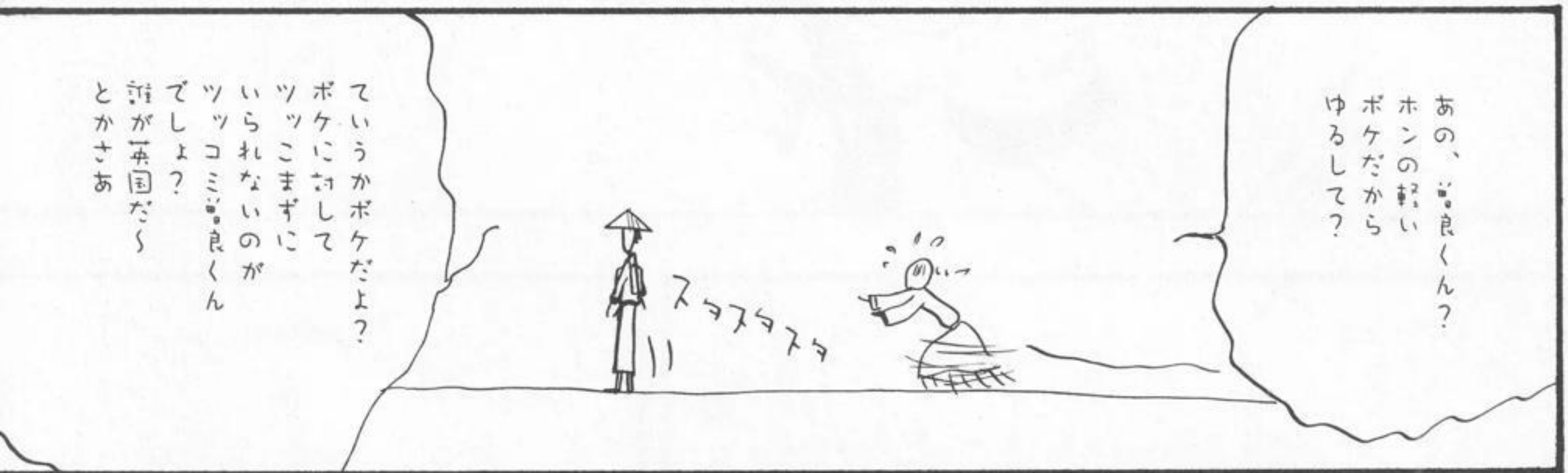
ハイ



おや、
これは

ほら、
危ないところ
だったろ？







そもそも芭蕉さんが
調子づいて
ハッスルしまくる
からでしょう

少しは
自重して
ください

うん：
基本的には
いいことしたと
思っただけと：

ぜいぜい

せめてツツコミは
何か言っただけは
あったよ

ポロ
ポロ

これじゃあ
やられ損じゃ
ないか

それもそうですね

「ドキユン☆」はないでしょう

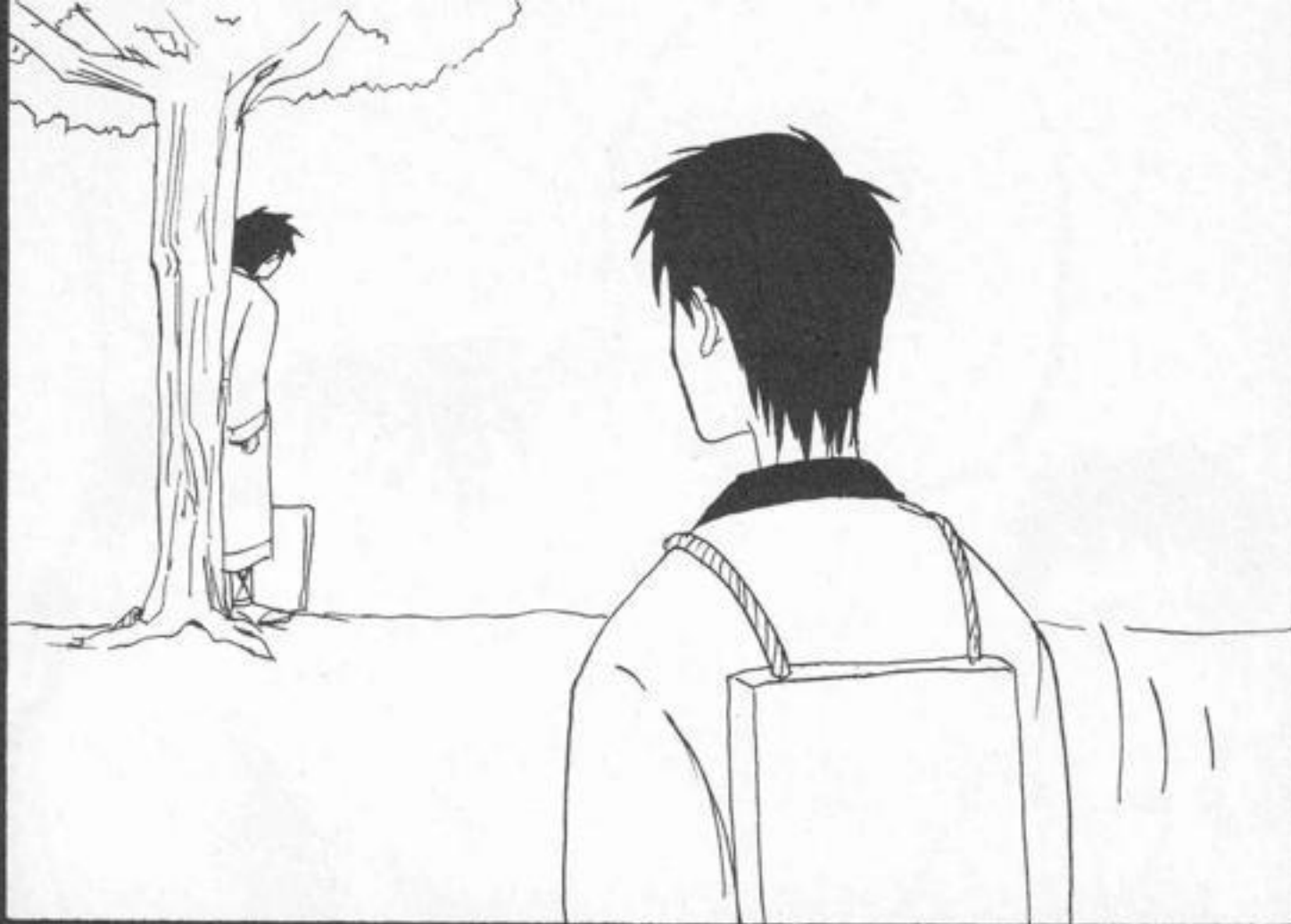
そこかよー！！

ちなみに
さっきの芋虫は
カラスのたんぱく源に
なりました

あー

バサ
バサ

ふい。



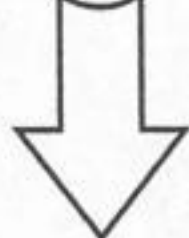
史実と絡めてみる。



さて、このあとに続く芭蕉さんの言葉はどれでしょう？

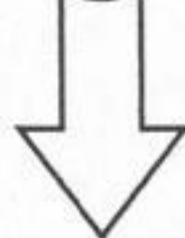
「曾良君て、ジョーク
のセンスが最悪だね」

A



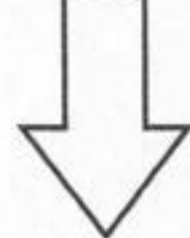
「え、曾良君て、
サイヤ人？」

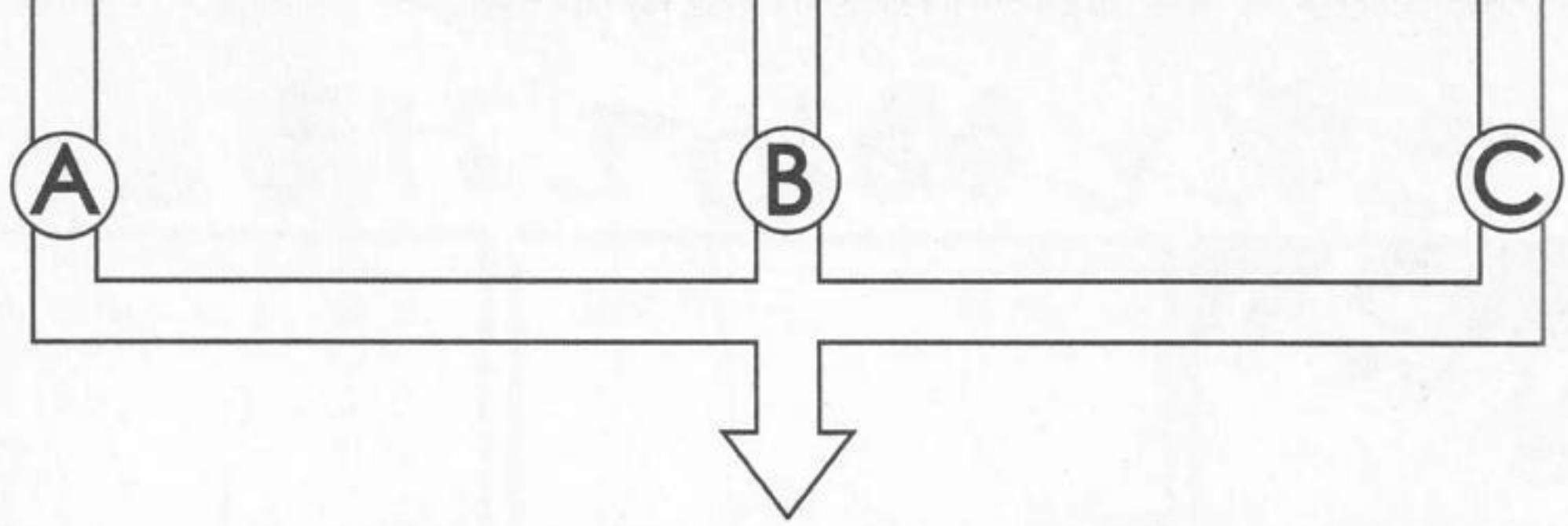
B



「なにー！？ たった
5歳しか離れてないの
によくも今までオッサ
ン扱いしてくれたなコ
ンチクショウ！ オッ
サン！ オッサン！」

C





もう一度
言ってください



なんでも
ありません

結局
何を言っても
怒られるんじや
ないか...

まだ懲りて
ませんか...?

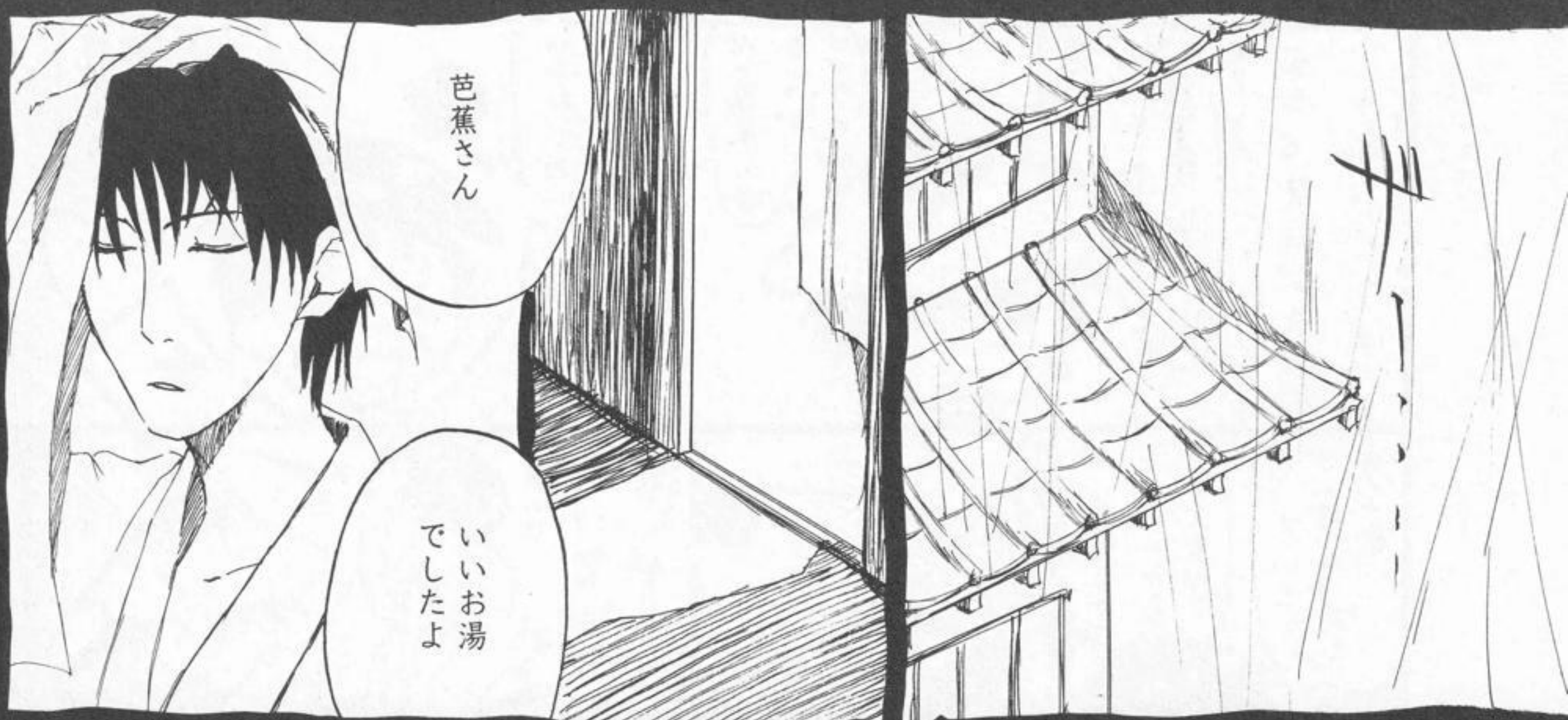
バキ

ハハハ

断罪チョップの
構えはよせ!

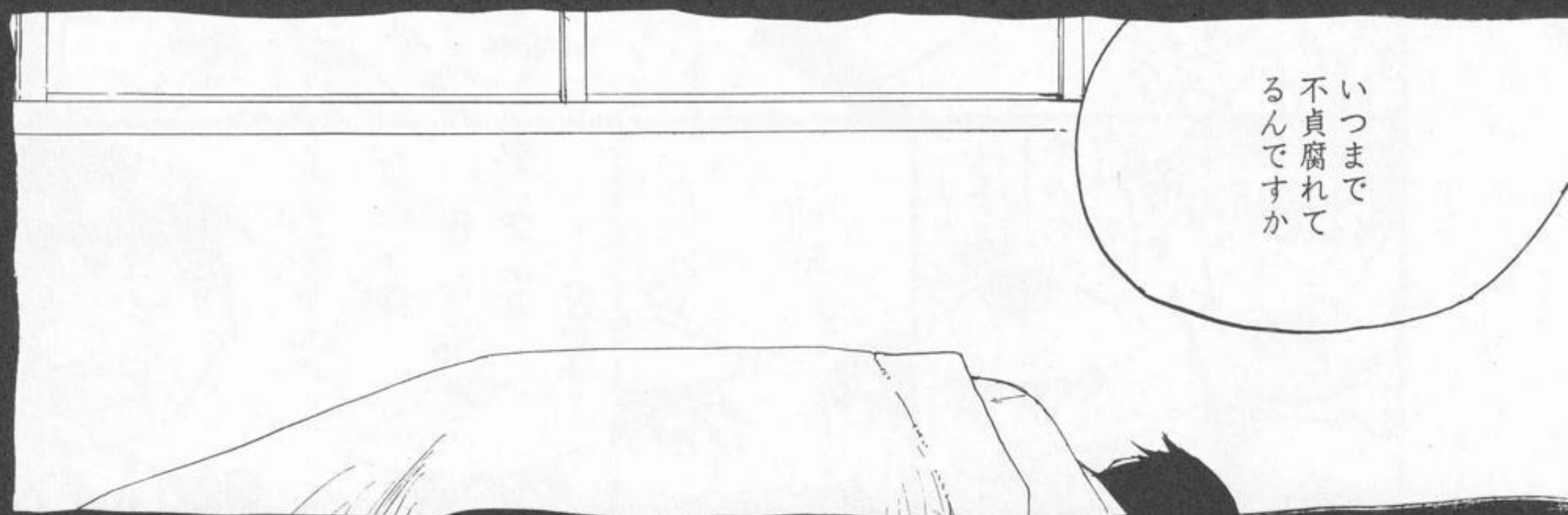






芭蕉さん

いいお湯
でしたよ



いつまで
不貞腐れて
るんですか



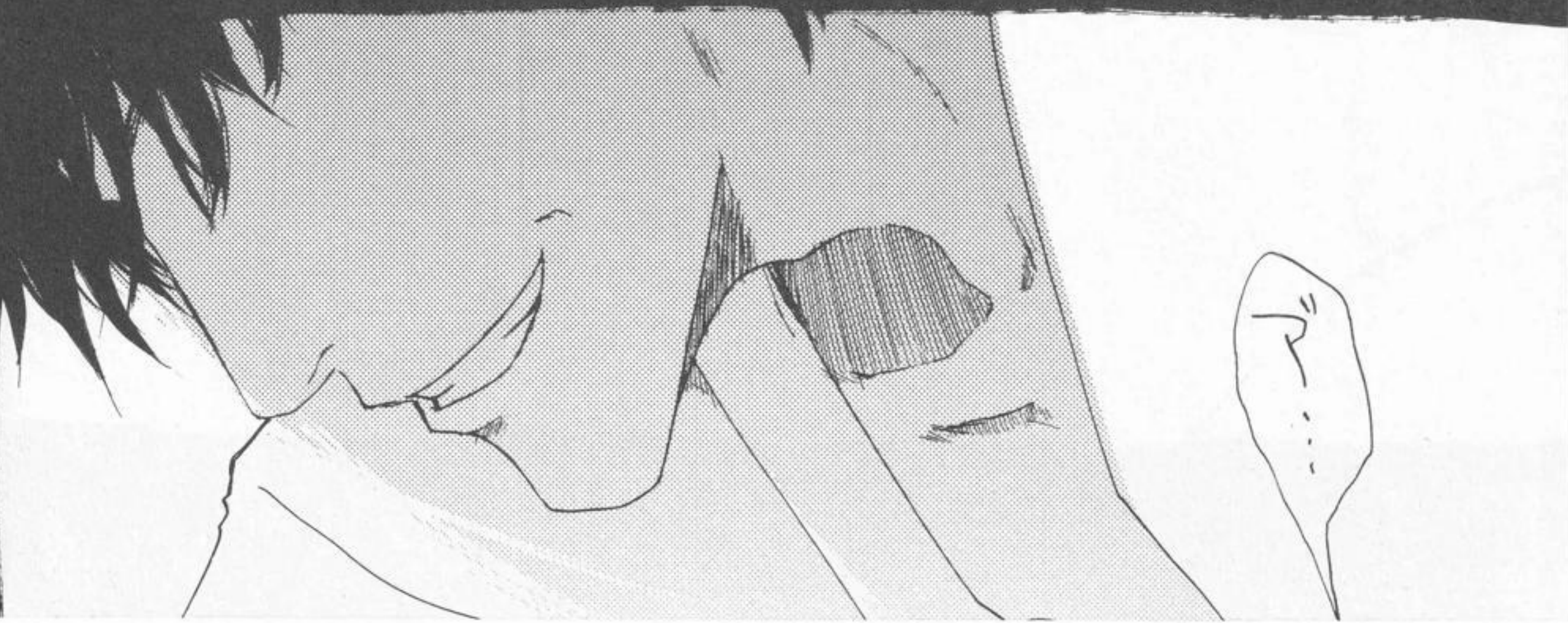






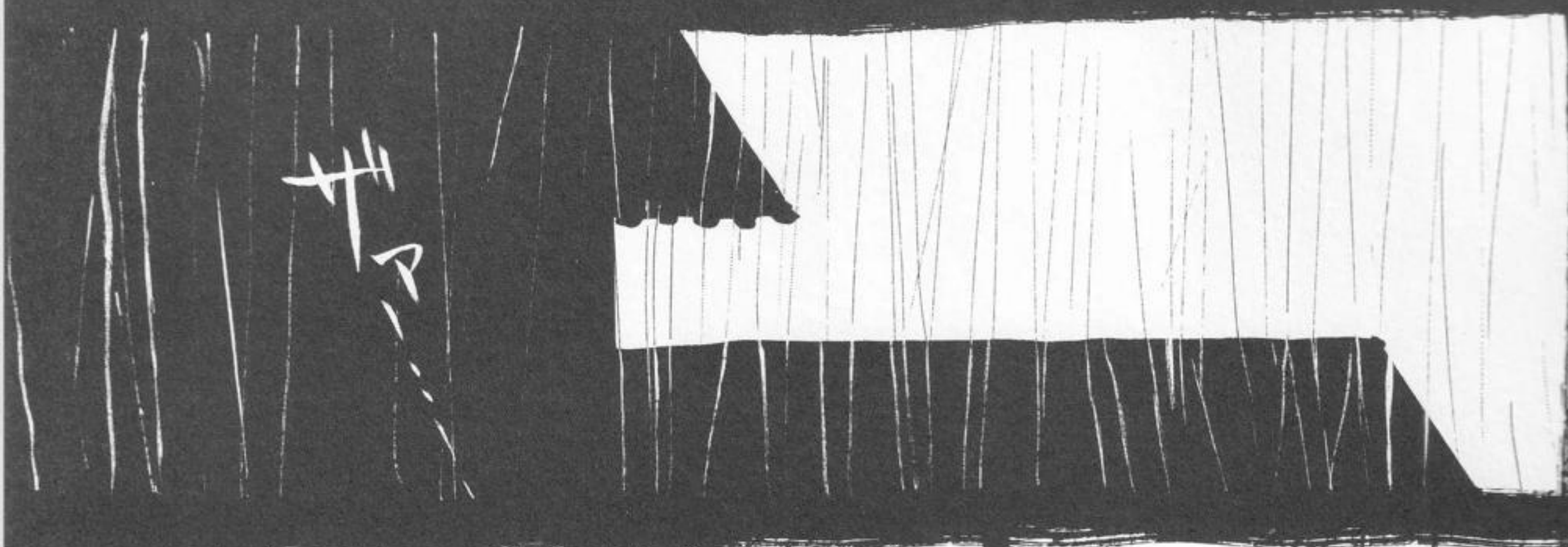
脆い

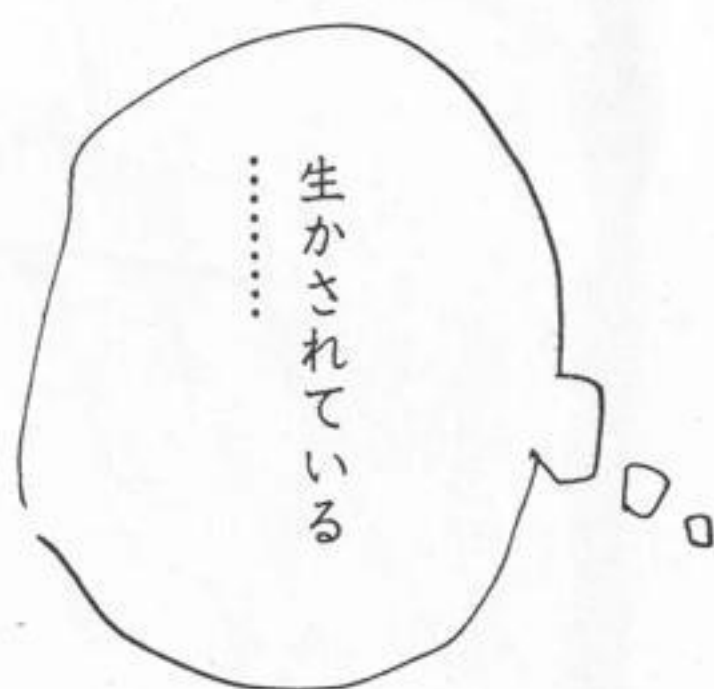












おわりに

さてさていかがでしたでしょうか。

初の日和本でゲストまでお招きしての豪華本でした。

だっちゃん、どうもありがとう！ 結局だっちゃんのまんがが一番ていうか唯一エロかった！ ありがとう！

曾芭について。

芭蕉さんはノンケで人並みに女好きだと思います。恨み言や文句は多いけど基本的には博愛。

曾良君は世の中の（芭蕉さんを除く）あらゆる事象に興味が無い・無関心だと思います。なンていうかね、「究極のSは突き詰めると究極のMである」という持論をやりたかったんですが中途半端になってしまいました。（どんな持論だ）

というか、つがいのSMでは依存心が強いのはむしろSのほうだと思うんですね。芭蕉さんはただのヘタレでMってわけじゃないので、曾良君が一方的に芭蕉さんに執着してるだけだと思います。

また本出す機会があるかわからないから言葉で書いちゃいますが（笑）

機会があれば多少エロティズムも追求してみたいところです。

あ、ばしょさんが報われない感じの四コマは「東京眼鏡」という4コマまんがのオマージュです。報われなさあまりにもばしょさんぽかったのでつい…おもしろいですよー。

それでは、とりとめもないあとがきですが、読んでくださってありがとうございました！

200712. サヤマユキヒロ

「さみだれを」

ギャグマンガ日和 曾良×芭蕉

2007.12.30 狭山組 No.81

<http://www.sayama-gumi.com>

本書は原作者・出版社とは一切関係ありません。
本書の無断転載・複写等の行為を禁じます。